

環コンパッション・アーツ11月の公演のご案内



『太陽を歌ってはいけない……?』

(難しい時代にアートの力)

リート・ビデオ・パフォーマンス

場所 シュトゥットガルト・テアターハウス

日時 2022年 11月 21日 (月) 20時開演

歌 / 古岸 靖子

ピアノ / コルネリス・ヴィットヘフト

映像・舞台 / シビツレ・ドゥーム・アルナウドフ

有名なシューベルトの「鱒」(後期18世紀)は明るい曲ですが、実は詩を書いたシューベルトが王に反抗する文章を度々発表したことが災いして10年間も投獄され、鱒を自身に置き換えて罫にかかった自分を歌いこんだものです。

いくつもの強制収容所を耐え、生還したベルマンがのちに書いたピアノ曲は言葉では言い表せない体験を消化して書かれたものです。

旧東独のクンツェの書いた動物の寓話はユーモアもありながら、言論統制への辛辣な批判です。曲はやはり生還者の作曲家のライナーが書き、音での風刺がはっきりと聞き取れます。

ブレヒトがナチスの手を逃れ点々と亡命地を換えた時に小さなラジオがどれほど貴重な情報源だったか、無事にアメリカに落ち着いてからもその不安定な気持ちの的確に言葉で表されました。

現在私たちは守られた生活をしていますが、ウクライナから逃げてくる人々を見れば、もはや対岸の火ではなくなってきました。

今回は、このように昔から政治や時代の流れの中で、身の危険をおかしたり、自由な発言を許されない中でも、ペンや芸術の力で発信されてきた様々な作品を取り上げます。

環コンパッション・アーツの紹介

日本とドイツのアーティストが協力し合い、作品を作り 発表しています。

ドイツと日本の文化や歴史、世の中で起こっていることや人間そのものをテーマにしています。

アートが社会に貢献できることを信じ活動しています。

これまでの作品記録

2022年『愛、苦悩そして嘘』

リート・ビデオ・パフォーマンス

シュトゥットガルト、話す言葉のアカデミーにて

2021年『ペーネミュンデの憐憫』希望

舞踏とコラボ

独日友好150周年記念公式行事認定公演

シュトゥットガルト、テアターハウスにて

ベルリン、聖エリザベト教会にて

[『ペーネミュンデの憐憫』希望 トレーラー ↗](#)

「わたしが一番きれいだったとき」

映像

[「わたしが一番きれいだったとき」ビデオ ↗](#)

2019年『ペーネミュンデの憐憫』破壊を孕む進歩

舞踏とコラボ

ペーネミュンデ、歴史・技術博物館にて

シュトゥットガルト、テアターハウスにて

[『ペーネミュンデの憐憫』破壊を孕む進歩 トレーラー ↗](#)

私たちの活動を応援して下さる方は以下にお願いいたします。

公益法人ですので寄付証明を発行できます。

[寄付申し込み ↗](#)